

東海道駿河以東：20北品川—三田—浜松町—銀座—日本橋

高輪の大木戸跡（国史跡）

宝永7年(1719)に芝口門に建てられたが享保9年(1724)に現在地に移された。天保2年(1831)には両側に石垣を気づき木戸を設け、人馬の通行検問・夜間通行を止めていた今は石垣が一部残るのみ。日本橋南詰・常盤橋外・浅草橋内・筋違橋内・半蔵門外と共に江戸六大木戸の1つ。伊能忠敬が東海道の測量の基点にしたのはここの大木戸。

新橋（鉄道の敷かれた時の最初の駅辺り）

この辺り汐留川が流れて、汐留橋があり、上流に新橋があった。宝永7年(1710)朝鮮使節を迎えるために芝口門が設けられ、橋の名も芝口門。後、火災に遭い、橋の名、新橋に戻る。日本橋、京橋同様欄干に擬宝珠が載っていた。

日本橋（国重文）品川より2里

江戸に幕府を開いた家康は城下の整備のためこの辺りの湿地帯に城下から流れる平川を延長、橋を架けた(慶長8年(1603))。翌年一里塚を設け諸街道の基点とし、橋の名を日本橋、川を日本橋川とした。構造は和式、木造反り橋、橋脚3本組8本長さ28間(約51m)。欄干に擬宝珠が載っていた。橋は何度か火災になる。明治になり洋風、車道、歩道が分けられる。

現在の橋は明治44年、ルネサンス様式、花崗岩造り、二連アーチ橋。設計は妻木頼黄ら。欄干の麒麟獅子像は彫刻家渡辺良男。橋名標は徳川慶喜筆。

日本橋魚河岸記念碑

家康の江戸入りと共に摂津国佃、大和両村の漁民30人が移り漁業を営む。江戸城に納める他住民に販売し市場となる。300年以上続いた市場も大正12年の関東大震災で築地に移る。

江戸歌舞伎発祥の碑

寛永元年(1624)上方から江戸にきた猿若勘三郎が中橋南地(京橋川南)に猿若座を立ち上げ興行したのがはじまりという。天保改革(1841)で風俗肅正で廃絶されそうになるが北町奉行遠山景元(金さん)の助言で江戸の辺地、浅草に移されて明治初めまで続く。

銀座発祥の地碑

現在の銀座1丁目—4丁目を江戸時代は新両替町といった。慶長7年((1617)駿府にあった銀貨鑄造所を移転。銀座役所が置かれ銀貨の鑄造を行って堺の銀商、大黒屋常是に独占権が与えられていた。その後銀座は尾張町、三十三間町など加え昭和初期には銀座八丁になる。

銀座ガス灯

明治7年(1874)当時、フランス人アンリ・プレランが京橋から芝まで設置した85基の1つ。

銀座の柳由来碑

元は松、桜、楓などであったが湿地で根が腐る理由から柳が植えられた。関東大震災の後、火災に強い銀杏が植えられる。実が臭いとのことで柳に、交通の妨げになるとのことで撤去されるが復活を願う人々の努力で1丁目—2丁目に植えられる。

河岸問答の碑

3代将軍徳川家光が東海寺に入るとき、沢庵和尚が迎え出て問答をしたところ。(大軍を率いても将(小率いても将(小)軍とはこれいかに)(海近くして東(遠)海寺とはこれ如何に)

利田神社・鯨塚

江戸時代、品川沖に迷い込んだクジラの骨を埋めた塚浜離宮まで引っ張って将軍家斉にも見せたという。



[弥次・喜多]
高輪辺り来て
"高なはへ来て
わすれたることばかり"



土蔵相模跡

旅籠(妓楼)で建物が土蔵のように海鼠壁会ったのが名前の由来。高杉晋作、伊藤博文など、幕末の志士たちが密議をした